

静しずのムクノキ

「大きな木だね。」

「ずっとここに立ってるの？」

その男の子は、お父さんにたずねました。すると、お父さんは、

「そうだよ。お父さんが生まれる前から、そして、おじいちゃんの生まれる前から、そのまたおじいちゃんの生まれるもっと前から、ずっとね。」

その木とは、那珂市瓜連かつらぎの桂木いなり稻荷神社境内けいだいに生育する、通しよう「静のムクノキ」です。

この木には、こんなお話があるのです。

応徳おうとく三年、今から九百年以上も前のことです。

前九年の役

(一〇五一年)

東北地方の豪族と朝廷側武将对立した戦乱。

出羽

東北地方の旧国名の一つ。山形・秋田両県にまたがる地域。

陸奥

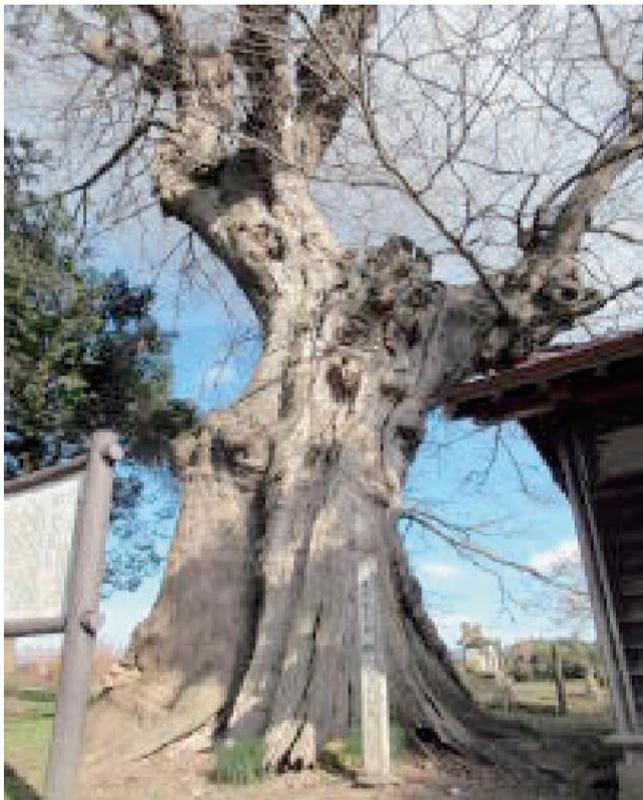
東北地方の古い呼び方の一つ。福島・宮城・岩手・青森の四県に相当する地域。

後三年の役

平安時代後期、東北地方を舞台とした戦い。前九年の役の後、藤原氏が登場するきっかけとなった戦い。

平安の時代、出羽の清原氏、陸奥の安倍氏という東北地方を支配していたごう族がいました。ところが、この二人のごう族が対立し「前九年の役」「後三年の役」という奥羽をぶたいとする、歴史に残る大きな合戦があいついで起こります。

「前九年の役」は、多賀国府にいた將軍源頼義、義家親子が出羽の豪族清原氏の助けを借りて、陸奥の豪族安倍氏をめつぼうに追いかつた。「北方の王者」の交代劇ともいえる戦いでした。その後、清原一族の間に内ふんが生じ、「後三年の役」が起こります。この内ふんにうまくかい入ったのが源義家でした。東征してきた源義家が戦勝を



東征^{とうせい}

軍隊などが東方に行くこと。日本では関東や東北地方に軍を進めるときに使われた表現。

き願したと伝えられているのがこの神社です。

その時、義家は、何としてもこの戦^{いくさ}に勝利し、陸奥の混乱を収めようと言う強い思いを胸に、持っていたムチを神社のかたわらにさしました。そのムチが根付いたのがこのムクノキといわれています。

このムクノキは、ムクノキとして生育できる北限^{ほくげん}のきよ木としてめずらしい木とも言われています。

九百年以上も前から、ずっとここに立ち、雨の日も風の日



も、人々の歴史を見守ってきました。境内で遊ぶ子どもたちをいつの時
代も見つめてきました。ずっとずっと昔から今まで、親から子へ時代が
流れていく様をじっとここで見てきたのです。

ほら、さわってみて…

ムクノキを

聞こえる

感じる

長い歴史の足あとを

時代の

いぶきを

